

長崎県性感染症 4 疾患患者全数把握調査結果（概要版）

【はじめに】

性感染症 4 疾患(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症。以下「STD4 疾患」という。)の流行状況は、長崎県内 10 ヶ所の指定医療機関からの届出数により把握しているが(定点調査)、今回、県内医療機関の協力を得て STD4 疾患患者の全数把握調査を行った。

【調査内容】

- (1) 調査期間 平成 21 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで
- (2) 調査項目 性別、年齢、居住市町、疾患名、HIV 検査実施の有無
- (3) 調査方法 協力医療機関(計 251 機関)から、STD4 疾患の患者情報を毎月報告してもらう

【結果】

(1) 報告年度別(図 1)

STD4 疾患患者数は平成 22 年度に 3039 件と高値を示し、平成 24 年度以降は減少傾向となった。疾患別では性器クラミジアの報告数が 4 疾患中最も多かった。

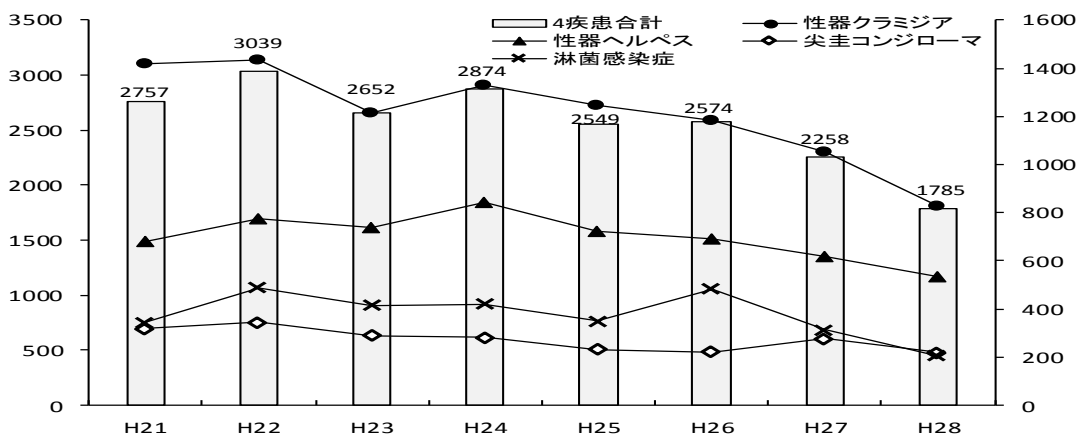


図 1 報告年度別

(2) 年齢別(図 4)

20 歳代、30 歳代の感染が多かった。30 歳代までは性器クラミジアの報告数が最も多いが、40 歳代以降は減少傾向にあることがわかる。男女間では 10 歳代、20 歳代で女性の報告数が男性を大きく上回っているが、30 歳代以降の差は小さくなっている。

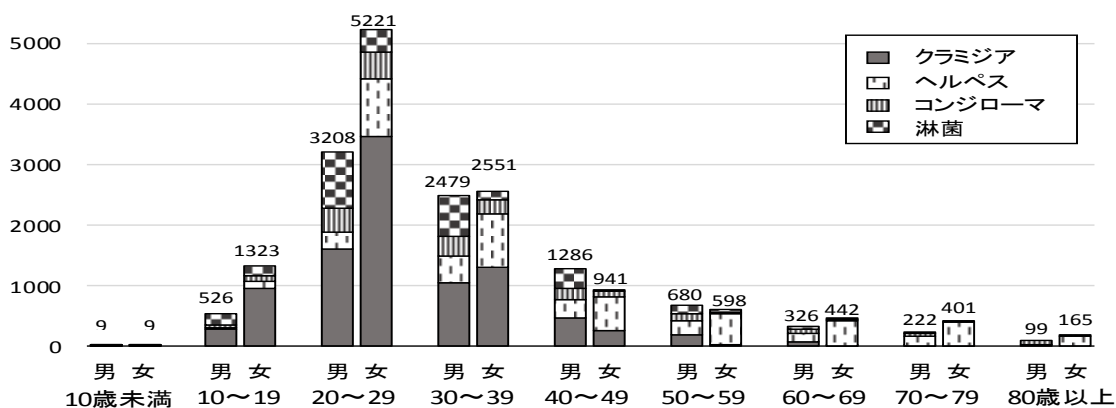


図 4 年齢・性別報告数

(3) クラミジア報告数(13歳から18歳までの男女別)(図6)

最も報告数が多いクラミジアについて、13歳から15歳の中学生の報告数は各年齢男女ともに0件から25件と少ないものの、高校生になる16歳では、男性は22件、女性100件と特に女性の報告数が急増した。

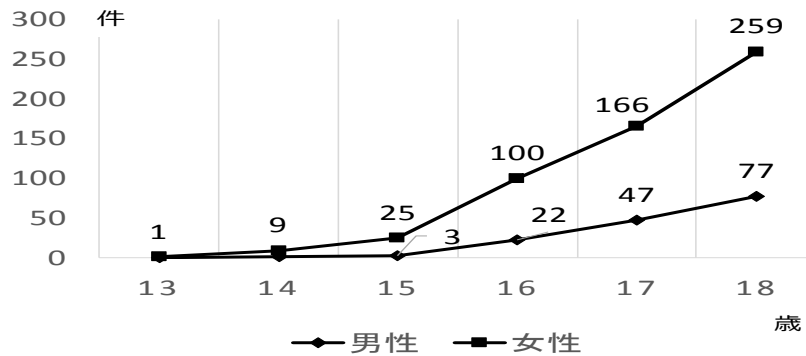


図6 クラミジア報告数(13歳から18歳までの男女別)

(4) HIV検査実施の有無(図7・図8)

報告実数16,958名のうち、HIV検査実施516名(3.0%)、HIV検査未実施16,206名(95.6%)、無記入236名(1.4%)であった。年次推移をみると、実施率は増加傾向ではあるものの、例年5%未満であった。

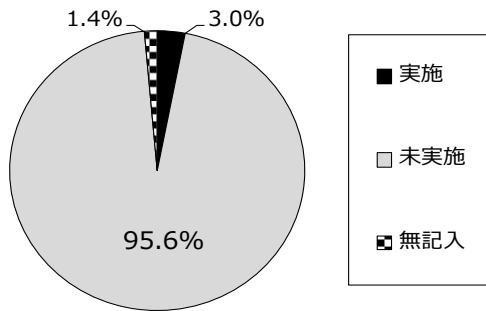


図7 HIV検査実施の有無

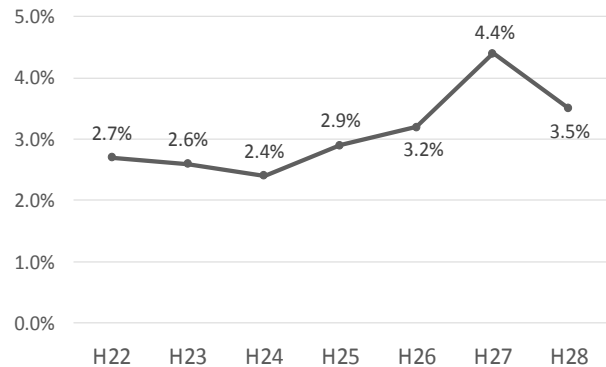


図8 HIV検査実施率の年次推移

(5) 保健所別報告数(図12)

保健所別のSTD4疾患報告数は、長崎市保健所管内が最も多く、次いで佐世保市保健所管内、県央保健所管内の順であった。

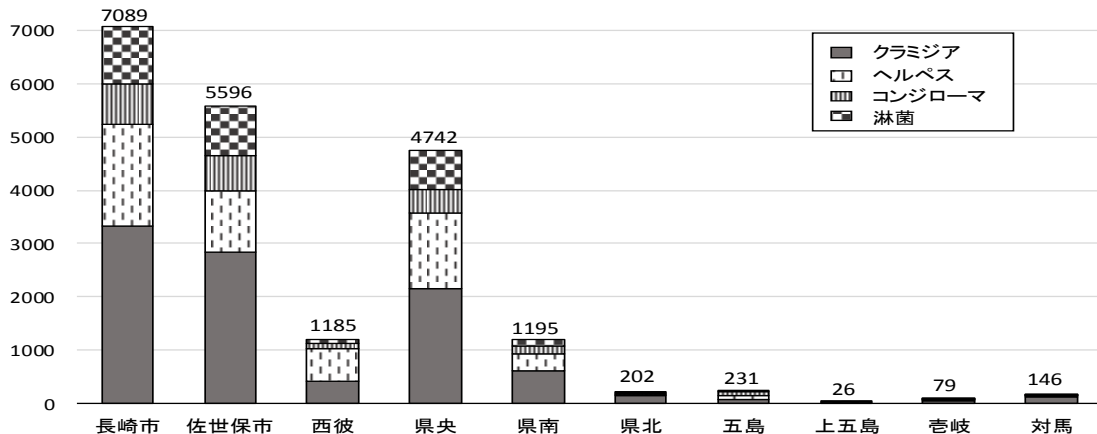


図12 保健所別報告数